

日根野中だより

令和6年1月15日発行 日根野中学校 校長 武田博之

いよいよ「まとめの三学期が始まりました…」

今の社会情勢から言って仕方がないのですが…ストレスを感じる最大の原因は一体何…？
今まで通り、素早く動けない失速状態や、今まで通り動くことすらできない停滞状態…？
「動くこと…」これ自体が自然界に生きる人間の根源的な欲望…誰もがこの三年間、身をもって感じたことなのでは…動けば風を感じることができる…視界に入る景色も変わる…
新しい日常は、立ち止まることでは決してない…守っていかなければならないことも多くありますが「動きを止めない…」これも忘れてはならない、新しい道だと思えます…

この三学期…考えなければならないことが…

始業式では、1月1日に起きた「能登半島地震」のこともあり、まずは亡くなられた方々への黙とうから始め、三学期の間にある二つの大きな震災の追悼にも少し触れました…
29年前の「阪神・淡路大震災」と13年前の「東日本大震災」です…
この大きな震災の中にある決して忘れてはならないこと…今を生きる者として深く学ばなければならないことなどを取り上げ、今を生きることへの幸せを実感し、感謝すること…
「心を考える」…そんな力を育んでいきたい…

また、まとめの学期にあたって、周りの人の「心」を考え、自分の「心」を考える三学期にしていきたいと考えます。

<心を考える…>

- 大切な誰かを思う「心」…
- 大切な仲間とともに生きる「心」
- 大切な誰かのために自分を活かす「心」…
- 自分を大切に作る「心」…
- 見えない…でも見なければならぬ「心」を
しっかりと捉えること…がんばっていきましょう！

生き抜く術を教える…
(東日本大震災より)
生き方考え方を教える…
(阪神・能登大震災より)
あらゆる教訓を導いてくれる
これらの出来事をもとに捉え
自分の力としていけるのか…
それらもすべて自分しだい…です…

裏面：29年前神戸で被災。泉佐野の親戚の家でお世話になり、第三中学校に転入し卒業…。その中学校生活での感謝を手紙として残してくれた、男子生徒の文章です。生々しいその内容をお読みください。

<心の風景…> 卒業…旅立ち…

3学期がスタートしました。3年生の教室には、あと40日あまりの中学校生活の思い出を多く残したいと工夫されている教室もあり、「卒業」を実感します。

とはいえ、この三年間の制限された「卒業式」が頭をよぎる人も多いのでは…。どんな形で実施できるのか？…。まだまだ不確定なところは確かにありますが、できる限り元通りの「卒業証書授与式」の実施を考えていきたいと思っています…。がんばりましょう。

三年前のことではありますが、新聞などでも取り上げられ、話題になった卒業証書があります。鹿児島中央駅の駅員さんたちが、その駅を毎日利用する子どもたちに向けて「卒業証書」を、駅構内の黒板に手作りされました…。その展示写真です。コロナ禍、卒業式がなくなってしまった生徒や学生に向けて、日頃の感謝を込めて綴った卒業証書…。素朴な言葉の中にある溢れんばかりの感謝の思いに感動します。何度読んでも感動できる「卒業証書」です。 ※全文を下に記載…



「卒業証書」

今日まで毎日、駅を利用してくれてありがとう。大雨に弱い指宿枕崎線。動物にぶつかる日豊本線。意外としぶとい鹿児島本線。決して使い勝手のいい駅ではなかったかもしれないけど、3年間みな様の元気に通学する姿を見て、私たちも元気ももらっていました。これからは、それぞれの道を進んでいくと思いますが、私たち鹿児島中央駅員一同はいつまでもみな様をお待ちしています。ご卒業おめでとうございます。

卒業式は簡単に言えば「形式」です。その中に、送る側と送られる側の感謝という「心」が入ってこそ感動的な卒業式になるのだと思います。この状況下、どれだけ元通りの形式に近づけるかわかりませんが、その中でお互い通い合う「心」は、より大きく、深いものにし「感動」できるものにしていきたいと考えています。ご理解ください。

みんな心を通わせ、がんばっていきましょう！

感性の広がりこそ
人生の広がり…
今の自分は周囲から
どのように見え…思われて
いるのか…
まずは考え
気づかなければ…